



地域の課題解決について講演する福島さん

基調講演では松本大学地域づくり考房「ゆめ」専任講師・福島明美さんが「地域の課題を見つめて。今、地域に求められているもの」と題して講演。辰野町でのボランティアコーディネーターの経験などから地域づくりや地域で抱える課題を解決するための手掛かりを話しました。

地域づくりの手掛かり

地域の課題は「宝物」。課題を解決し、夢を持てる地域社会に



区民参加によるアレチウリ駆除作業 (区のモデル事業・徳治郎区)

福島さんは地域の課題は「宝物」で地域を見つめ直す絶好の機会とし、課題を解決するには、協働する人や組織が互いに活動の目的や情報などを共有することが大切と話しました。また、地域で人と人とを結ぶつなぎ役となる人の存在も重要だとし、地域づくりにかかわる人が個々の役割を果たすことにより、活発で自立した地域社会を作る一歩につながっていくと話しました。地域の課題を見つけ、地域づくりを通じて、子どもたちが夢を持てる地域社会が形成して行つてほしいと会場に呼び掛けました。



当日の様子

地域課題をみんな考えて考える

◎協働のまちづくりー地域を考える研究集会概要

市と市区長会では、地域で抱えるさまざまな課題を地域で解決する仕組みづくりを考えるため、本年度、初めて「地域を考える研究集会」を開催しました。この度その概要がまとまりましたのでご紹介します。

区や区にかかわる組織の皆さんが情報を共有

少子高齢化や核家族化が進む中、地区の役員や消防団員のなり手がいない、あるいは地域の伝統文化の継承者がいないなど、地域が抱えるさまざまな課題に対して多くの市民が向き合い、知恵を出し合い、より良い地域づくりに向け取り組んでいくことが求められています。

こうしたことから市と市区長会では、区など地域コミュニティの役割を考え、地域課題を地域で解決する仕組みづくりについて考える「地域を考える研究集会」を初めて企画しました。研究集会は、本年9月21日に

区のあり方を考える

「区という組織は？もう一度振り返ろう、区のあり方を」
時代にあった区の組織見直しや区の課題を区民が共有
市民にとって身近な地域コミュニティである自治会組織、区への活動への無関心や区役員のなり手不足、前例踏襲による活動への住民の不満などが課題となっています。分科会では区のあり方について3つの区が取り組みについて事例報告しました。

●区の事例報告の内容

取り組み	内容
堀金・下堀区 役員任期、地区公民館組織、木戸割りなどを見直し	「下堀区ありかた検討委員会」を設置。「古き良いものは残し、時代に合った改革」をテーマに区民実態アンケートを行い、役員任期などを見直し改革を進めています。
明科・宮中区 区民が地域の課題を共有	「地域づくり協議会」を設置し、ワークショップ形式で課題解決のための議論を行い、地域の課題を多くの区民で共有しています。
豊科・飯田区 区の活性化、区民が参加しやすい仕組みづくり	明治時代に地区公民館の場所にあった学校にちなみ「飯田学校」を開校。それまで区内で各団体が個別に行っていた講座や行事などを区や地区公民館、地区社協、健康づくり推進員など各団体と連携して開催し、区民が参加しやすい仕組みづくりを目指しています。



当日の内容などをまとめた報告書